

府中市議会市民フォーラム 視察報告

幹事長 渡辺しょう

スケジュール

1日目

令和5年10月10日(火) 函館市地域交流まちづくりセンター

行程：府中駅～羽田空港(第一ターミナル)

リムジンバス 5時50分発→6時50分 1,600円/1人

羽田空港～函館空港 JAL 7時35分発→8時55分着

21,930円/1人、7名

函館空港～まちづくりセンター タクシー 9、1km 約23分～30分

約3,000円/1台

視察時間：10時～11時30分程度 会議室利用料 1,000円

宿泊場所：ルートイングランティア函館駅前

2日目

令和5年10月11日(水) 青森市 市庁舎 見学

行程：新函館北斗駅～新青森駅～青森駅 9時35分函館北斗発→10時37分

新青森着、11時14分新青森発→11時19分青森着

7,720円/1人

宿泊場所：ルートイン青森駅前

視察時間：13時30分～15時 15時36分 市役所前のバス停

※視察終了後、手塚議長は全国都市問題会議へ出席のため移動

3日目

令和5年10月12日(木) ボートピア黒石

視察時間：10時～12時

レンタカー 8時40分 青森駅

トヨタレンタカー(借りる場所：青森安方店(青森駅徒歩10分)、

返却場所：新青森駅西口徒歩1分) ノア

基本料金14,300円+任意保険1,100円

帰り 新青森～大宮～府中本町 15時52分青森発～18時39分大宮着～
府中本町17,260円/1人 6名分

視察内容

1日目 函館市地域交流まちづくりセンター

まず、地域まちづくりセンターの施設を丁寧にご説明いただきました。職員は、無給職員のセンター長1名と常勤の職員7名で運営されています。

主な事業としては、市民活動支援事業、社会参加促進事業、移住サポートデスク、定住化サポートデスク、自主事業、総合窓口となっています。

運営は、指定管理となっており、「NPOサポートはこだてグループ」を、NPOさぽーとはこだてと100人規模のトーションビルサポートという2つの組織からなる組織が運営していることがわかりました。

特に、主な事業の中の、函館市移住サポートセンターについて詳しい説明がありました。移住支援について力をいれており、移住支援や、移住によるデメリットを移住希望者に詳しく説明する事業を行っているとのことでした。移住の検討段階から移住後の暮らしのサポートまで、一元化している窓口で対応されていることは、素晴らしい取り組みであると思いました。現在までの実績として、相談件数2,164件、移住者167組289人とのことでした。

以下、フォーラム議員と職員の方の質疑応答を紹介します。

Q、手塚議長「施設の稼働率について、駐車場はどうなっているか？」

A、職員「年間1万人の利用がある。団体が高齢化しているため稼働率が悪くなっている。駐車場は1日300人程度が利用する。」

Q、稲津議員「団体間の連携はあるのか？」

A、職員「3階のポスター展でアピールしてもらおう。ステージの発表等で連携する。」

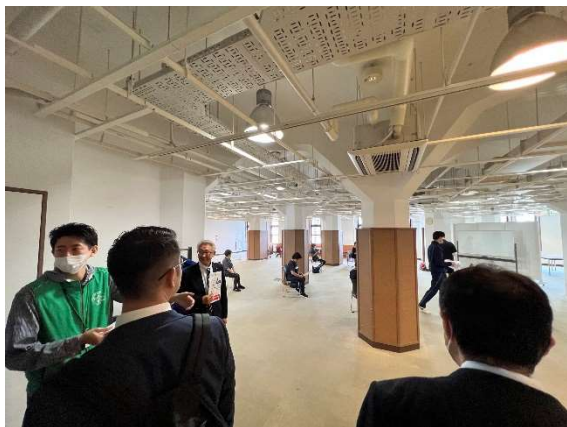
Q、おぎの議員「その他の施設はどのようなものがあるか？」

A、職員「亀田交流プラザという若い人が多く住む場所にもある。」

Q、渡辺議員「広報の方法は？」

A、職員「メール、メーリングリスト、フェイスブック、インスタグラム、毎日更新しているブログ、HP、市のHPなどで広報している。」





2日目 青森市役所新庁舎建設について

2日目は、青森市の新庁舎を視察しました。今回は、令和元年に竣工した本庁舎を視察させていただきました。これまで、青森市役所は第一庁舎(昭和31年竣工)、第二庁舎(昭和40年竣工)、第三庁舎(昭和63年竣工)、議会棟(昭和48年竣工)、急病センター(昭和53年竣工)からなる旧庁舎でしたが、再編によって、本庁舎は、令和元年に竣工した本庁舎、急病センター(旧第三庁舎棟)、議会棟(昭和48年竣工)に変更され、令和2年1月から供用開始されました。また、青森駅前に、これまで商業施設であった「アウガ」の1階から4階

を駅前庁舎として活用しました。

職員の方からは、市庁舎建設の経緯について詳しく伺いました。

まず、平成22年8月の耐震診断により、旧本庁舎の第一庁舎、第二庁舎、急病センターが耐震基準を満たしておらず、大地震で倒壊又は崩壊する可能性があることが示されました。翌年の平成23年には、市民意識調査や100人委員会、ワークショップ、職員アンケートにより庁舎に関する意見を募りました。平成25年に庁舎設備基本計画(10階建て、建築費100億円)が決定しました。平成27年に基本設計の完了、平成28年にアウガと新庁舎に関する対応方針が発表されました。平成29年に新たな対応方針を反映させた設計(3階建て、工事費32億円)に変更されました。そして、令和2年1月に、新庁舎の供用開始がされました。

現在の移転後の課題として、青森市役所の津波時の浸水が1、9mに設定され、本庁舎1階に設置されている電話交換機の浸水が想定されることになったそうです。現在、令和5年中に本庁舎3階に移転することを検討されているそうです。また、空調設備や融雪設備の導入により、電気および都市ガスの使用量が増加し、さらに燃料費の高騰により電気料と都市ガス料が大幅増額となりました。平成28年の旧庁舎では、職員1人当たり49,147円だったが、令和4年には、職員1人当たり154,650円になりました。

以下、フォーラム議員と青森市役所職員の質疑応答を紹介します。

Q、にしみや議員「市庁舎になる前のアウガの状況について、柳川庁舎には何課があるか？」

A、職員「少しずつ店舗が空きはじめ、終盤は空き店舗だらけだった。柳川庁舎には農業委員会と監査事務局がある。」

Q、秋田議員「アウガの移転でコストは削減されたか？」

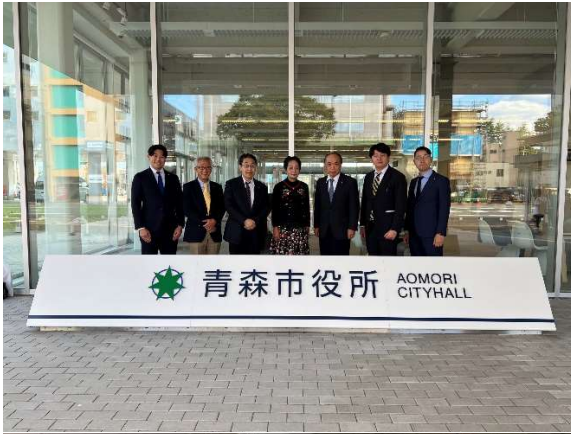
A、職員「マイナンバーはアウガで取得できるようになり利便性が向上した。コストも削減された。」

Q、稲津議員「津波の災害時は？」

A、職員「2階の庁議室を使い本部で話し合う。」

Q、渡辺議員「庁舎の開庁時間は？」

A、職員「庁舎により異なるが、7時から19時、8時30分～18時、土日は9時～17時。」



3日目 ボートピア黒石の視察

ボートピア黒石は、府中市が施行者の「平和島競艇」の場外舟券売り場です。黒石の雇用に寄与しているほか、黒石での売り上げの1%は開設以来、環境整備協力費として本市から黒石市に支払われ、黒石市にとっては安定した歳入が見込める財源となっています。平成26（2014）年に開店したレストラン「Bーダイナー」は、激安の食事処になっており、競艇をされない方も、食事に訪れるそうです。担当者不在のため詳しい質疑はできませんでした。







全体を通した感想

まず、1日目の函館の地域交流まちづくりセンターについては、定住者を定住前から定住後も丁寧にサポートし、定住後の不安も取り除く努力をしていることは府中市も見習うべき取り組みだと思いました。日本版 CCRC の取り組みをしている基礎自治体がありますが、府中市においても市外からの人口流入を増加させる取組を様々な検討し、施策に取り入れるべきだと考えました。

次に2日目の青森市役所についてです。防災の意識が高いように感じました。商業施設アウガを利用した移転などは素晴らしいと思いましたし、災害対策においては見習うべき点が多いように感じました。府中市においては、新庁舎移転後、省エネできているようですが、節電の取組も青森市から学ぶべきだと考えます。

最後に、3日目のポートピア黒石についてです。ポートピア黒石の場外舟券売り場によって平和島競艇は支えられているので、これからも黒石市や黒石市民、黒石市議会との交流を図っていくべきだと改めて思いました。今回の視察をもとに、市民フォーラムも府中市に対して、様々な提案を行っていきたいと思います。

以上